

# 2024年6月 北欧剣道交流レポート

NPO 法人国際社会人剣道クラブ  
東海クラブ 志知 照子

5月24日（金） 総勢7名、曾根孝悦団長（東北）、佐藤健二・荻原博・藤原勝（関東）、小下明人（中国）、志知照子（東海）が成田からフィンランドに向けていよいよ出発です。

翌25日（土）12時間のフライトを経てヘルシンキに到着。一息入れて、市内観光、ヘルシンキ大聖堂から、世界遺産に登録されている「海の要塞」に行きました。かつて激戦の基地だった島は最も人気の高い行楽地になっていました。首都の中央駅や港には駅員さんの姿がひとりもいなかったことには驚きと困惑。券売機は素直に動いてくれないし、購入したチケットのチェックはないし、電車も船も合図なしで動きだす始末、戸惑いからのスタートでした。

3日目の26日（日）は、藤原先生、小下先生、志知の3人が本場の海に浮かぶサウナへ。夜はフィンランド剣士26名と稽古。公営の体育施設の中に専用の剣道場がありました。気合充分の準備体操のあと、曾根先生の指導による基本の練習、その後二手に分かれて有段者は「攻め」、初心者は「基本の定着」の稽古。その後、3分間に区切った指導稽古に汗を流し、終了です。

4日目27日（月）は、スウェーデンの首都ストックホルムに移動しました。夕方、旧市街を散策しました。スウェーデンは第2次世界大戦時中立国であったので、戦火を受けることがなく中世から近代までの建物が混在して美しい街並みをつくっています。

28日（火）は、夕方まで各自フリータイムとし、佐藤先生・荻原先生・志知はレンタサイクルで走り、Vasa美術館に入りました。Vasaは船の名前です。1628年処女航海で横風を受け、陸から1300mのところで沈没、1957年に引き上げて復元保存しています。全長65m、その大きさと装飾、技術、保存にかける熱意に圧倒されました。

18:00から2時間、「K I B O（希望道場）」（代表ニッセ先生7段）32名の方々と稽古。IGKC中国クラブの木谷先生、現地在住の上安・山崎両先生も加わって激しい稽古が展開されました。

指導稽古の前には、曾根先生が立会いの作法と切り返しのバリエーションを指導されました。

29日（水）は、夕方まで自由行動。佐藤先生、荻原先生、小下先生、志知は、引き続き自転車で市内観光。ノーベル博物館、王宮の衛兵の交代式を見ました。

18:00から前日と場所を変えて稽古。佐藤先生が「機を見ること」、「攻めは中心をとる」、「理合を大切にすること」を指導されました。稽古後は合同夕食会、イタリアン料理で乾杯、大いに交剣知愛の絆が深まったのは言うまでもありません。10時を過ぎても明るい北欧の白夜を堪能しました。

7日目30日（木）は、ストックホルムからリガに移動。迎えに来てくれていたキンズーリス会長の車

で、書道教室へ直行です。年齢は様々な方々が 20 人ほど集まって、初日は墨絵を書くことから始め、書きたい文字に発展しました。

31 日（金）午前中は自由行動。曾根先生と志知は往復 10 キロの道のりを歩いて旧市街まで出かけました。たびたびの戦火に見舞われながらもその都度復興して世界遺産に登録されている街です。リーガ大聖堂では世界最大級 6781 本のパイプを備えたオルガンの演奏を聞きました。天上から音が降り注ぎ包まれる体験をしました。午後からは書道教室 2 日目、自分の誕生月を漢字で書いたり、名前をカタカナで書いたりしました。漢字が象形文字であることに興味をもって、スマートフォンで絵と漢字を見比べて書いているキッズもいました。

19:00 から稽古。佐藤先生が担当され、「大きい面打ちと小さい面打ちを繰り返しながら、足さばきを注意する、首筋を立てる」ことを指導しておられました。

9 日目 6 月 1 日（土）は、湯村カップ（個人戦）。ラトビア、リトアニア、スウェーデン、ポーランドなどから 36 人の選手が集まりました。在ラトビア日本大使館から高瀬寧大使のご臨席を仰ぎ開会式が挙行されました。キッズ・ジュニア・一般の順に試合が展開され、曾根先生が審判長、佐藤先生、荻原先生に加えてスウェーデン、ニッセ先生ら現地の高段の先生方が審判をされました。実力が伯仲する中での試合は大いに盛り上がり、数多くの熱戦が繰り広げられました。

終了後、剣道セミナーを曾根先生が担当され、主な仕掛け技、応じ技を実践し、特に、切り返しを大切にすること、左脚、左腕をうまく使って身体全体の力がもの打ちに活きるように使うことを指導しておられました。

大会終了後はウエルカムパーティ。ビールもワインも変化にとんだ料理もおいしかったのはもちろん参加選手入り乱れての懇親会は、剣道をしていて本当に良かったなあという感慨に浸れたひと時となりました。

10 日目 2 日（日）リガカップ 湯村杯（団体戦）3 人制、12 チーム、（内女性 4 チーム）リーグ戦から 8 チームのトーナメント戦で勝敗を決めました。決勝戦はラトビア「KAWAII GIRLS」対 ポーランド「HOT POTETOS」。どちらも華奢な女性とがっちりした男性の混合チームです。優勝はラトビア「KAWAII GIRLS」チームになりました。大会が始まって以来 13 年目にして、初めてのラトビアの優勝にみんな大喜びでした、特にキンズーリス会長の喜びに満ち溢れたお顔が印象的でした。表彰式では個人戦一般優勝者男女それぞれに湯村杯が曾根団長から渡されました。

大会が終わって参加者の大半が帰ったにもかかわらず、ラトビアとポーランドの選手はセミナーを希望。曾根先生が、剣道指導要領の中から主な基本技を指導し、その後、参加会員全員が元立ちになって指導稽古。求めて稽古に挑む真摯な姿に感動でした。

日本メンバーとキンズーリス会長のさよならパーティー。来年の再開を誓い合ってグラスを重ねたのでした。

11 日目 6 月 3 日（月）帰国 12 日目 6 月 4 日（火）成田空港着

詳細は書けませんが、この度の旅行では、幹事役の藤原先生、ストックホルム在住の上安先生に大変お世話になりました。ありがとうございました。

ヘルシンキ









ストックホルム









リガ書道教室



リガ 旧市街地



リガ大会前 セミナー





湯村カップ











さよならパーティー

